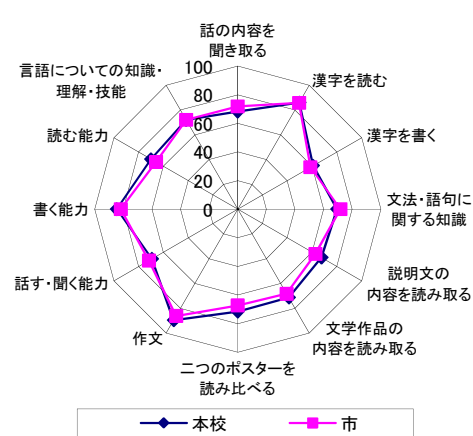


宇都宮市立古里中学校 第1学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話の内容を聞き取る	68.3	71.9
	漢字を読む	86.2	85.7
	漢字を書く	60.7	58.7
	文法・語句に関する知識	69.4	71.7
	説明文の内容を読み取る	67.6	62.6
	文学作品の内容を読み取る	71.3	68.3
	二つのポスターを読み比べる	71.5	67.2
	作文	89.6	86.2
観点別	話す・聞く能力	69.3	71.7
	書く能力	84.6	81.8
	読む能力	70.0	65.9
	言語についての知識・理解・技能	72.1	72.1



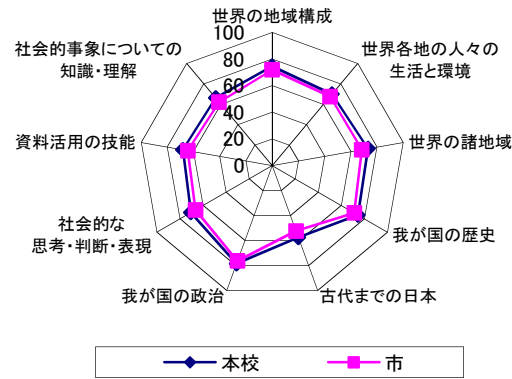
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話の内容を聞き取る	宇都宮市の平均と比べ-3.6%であった。今後力をいれて指導していくべき事項である。特に聞き取った呼びかけに対して、自分の意見を書く問題の正答率が低かった。	普段からメモを取る習慣をつけさせていきたい。教師側の指示も1度だけにし、メモしなくてはならない環境づくりもしていきたい。授業だけではなく、話を聞く場面ではメモを取り、ポイントをおさえるよう指導していきたい。
漢字	宇都宮市の平均と比べ漢字の読みは+0.5%、書く分野は+2%と、いずれも漢字に対しての知識は市と比べて高い。	普段から比較的読書を進んで行い、本を読むことが好きな生徒が多い。本に触れることで、授業外も漢字に対しての知識がつく。継続して行うよう授業外でも指導していきたい。
文法・語句に関する知識	宇都宮市の平均と比べ、文法・語句に関する知識は、-2.3%であった。特に故事成語の問題が回答率が低かった。	故事成語や、古典に関する知識などは、来年度以降も継続していくべき分野ですので、生徒たちが興味をもつような工夫をしていく。また、おさえるべき部分は小テストをし、確実におさえさせていく。
説明文の内容を読み取る	宇都宮市の平均と比べ、+5%と、理解度が高い。特に、接続詞の穴埋めと、内容の要約ができていた。	文章などの読解力が高いので、説明的文章の見方・考え方を一段階ずつ上げて指導していきたい。
文学作品の内容を読み取る	宇都宮市の平均と比べ+3%と理解度が高い。特に筆者の心情を読み取る問題の正答率が高かった。	筆者の心情を捉える問いに対しては、市平均より正答率が10%も高かった。心情や情景描写、伏線など、文学的文章に必要な知識をさらに指導していきたい。
二つのポスターを読み比べる	宇都宮市の平均と比べ+4.3%と正答率が高かった。特に図の中の文章を埋める問題の正答率が高かった。	見て答えるだけではなく、文章として答える力も高い。ただし、ポスターの工夫点を考える問題の正答率は他に比べると低かったので、実際に書くときには何が必要か考えさせる指導を行っていきたい。
作文	宇都宮市の平均より+3%高かった。	一学年では根拠を明確にして書く指導を行った。来年度以降は、反論をふまえて作文を書いたり、文の構成・種類について指導し、更なる書く力をつけさせたい。

宇都宮市立古里中学校 第1学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の地域構成	74.6	71.9
	世界各地の人々の生活と環境	70.0	67.7
	世界の諸地域	73.1	68.4
	我が国の歴史	74.4	71.2
	古代までの日本	57.5	52.3
	我が国の政治	78.4	76.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	70.7	66.5
	資料活用 of 技能	68.2	64.3
	社会的な思考・判断・表現	66.2	62.1



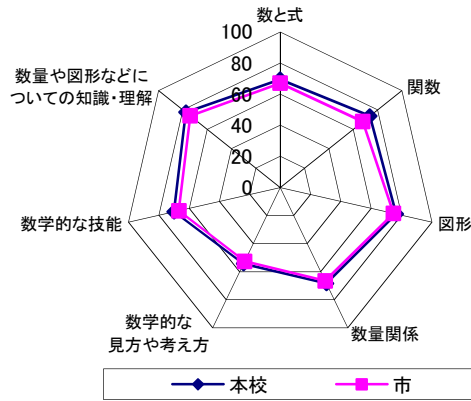
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の地域構成	この領域の大問は1問で、小問は4問であった。市の平均を2.7%上回り地理歴史を通して最も高い正答率である。一学期の最初の単元であるが、良くできていた。	総じて市の平均を上回る結果となったことを受けて、知識・理解、思考・判断・表現、技能の各分野においてさらに深く考えられるよう一段階上を目指す。学びあいを通して文章で表現する力なども伸ばしていきたい。
	世界各地の人々の生活と環境	この領域は、大問は1つで小問3問であった。世界の住居や食事に関する問題が出され、2.3%市の平均を上回っている。	
	世界の諸地域	アジア地域の中国インドをテーマに、表・グラフの読み取りなど小問4問出題された。市の平均を約5%上回っていた。	
歴史	我が国の歴史	この問題は、大問1つで小問2問出題された。年表を見て歴史的な事象が起こった時期を答えさせる問題が出題された。	歴史領域も他の領域と同じく市の平均を大きく上回っている。中学校で学んだ内容も非常に良くできていた。二年生になっても上回れるように、さらに深く考えられるように授業を行ってほしい。
	古代までの日本	この領域の大問は2問で、小問は14問であった。中学校で学んだ内容である。正答率は他に比べて低い、市の平均と比較すると5.2%上回っている。	
公民	我が国の政治	この領域は小問4問である。小学校で学んだ内容を問う問題である。市の平均は2%上回っている。	この領域は3年生の公民にもつながる内容である。小学校での既存の知識を活かしさらに深く学べるようにしたい。

宇都宮市立古里中学校 第1学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	69.5	67.1
	関数	73.7	67.9
	図形	76.4	74.7
	数量関係	68.4	66.5
観点別	数学的な見方や考え方	54.4	52.6
	数学的な技能	69.9	66.8
	数量や図形などについての知識・理解	77.6	73.9



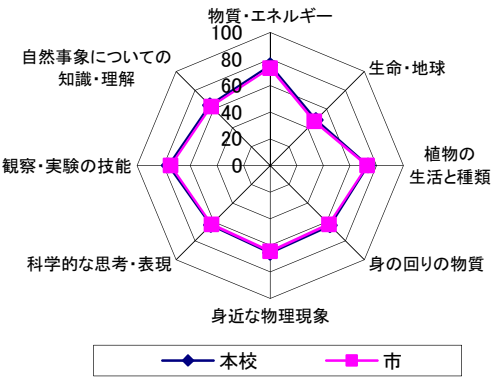
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は宇都宮市の平均より2.4%高い。基本に関する部分は概ね良好である。 係数が小数の1次方程式の正答率が6割程度であり市平均に比べても若干低い。 記述式の問題に苦手意識が強いようで、正答率が全体的に低い。	基礎基本の定着を図るために、反復練習に力を入れる。特に計算力を向上させるためのドリル学習をすすめる。記述問題に関しては、1つ1つの課題をていねいに指導していきたい。
関数	正答率は市平均より5.8%高い結果となっている。 問題は、基本的でやさしい問題であったためと考えられる。	関数を学ぶ上で大切な表・グラフ・式について、基礎基本をさらに徹底させたい。さらに見方、表し方の基本から一歩踏み出して、これらを使った様々な問題に触れる機会を多く設け、もっと表・グラフ・式と親しめる授業展開を工夫していきたい。
図形	図形の問題は大問2つで、どちらも小学校の内容の問題であった。市平均より1.7%高い結果となっているが、大問ごとに見ても、どちらも市平均を上回る結果であった。	小学校の内容をよく理解しているので、中学校の図形にも興味関心を持って生徒が取り組めるような授業を展開し、図形の学習が好きな生徒を増やしていきたい。
数量関係	正答率は宇都宮市の平均より1.9%高い。大問3つあり、いずれも小学校の内容の問題であった。場合の数の求め方、記述問題の正答率が5割強であり、定着していないことがみてとれる。	場合の数、資料の調べ方については中学でも取り扱う内容である。しっかり復習をしながらさらに定着していくよう指導したい

宇都宮市立古里中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	75.3	73.3
	生命・地球	48.5	47.0
	植物の生活と種類	73.4	72.9
	身の回りの物質	63.6	62.4
	身近な物理現象	65.6	64.5
観点別	科学的な思考・表現	63.1	62.5
	観察・実験の技能	76.4	74.8
	自然事象についての知識・理解	64.2	62.8



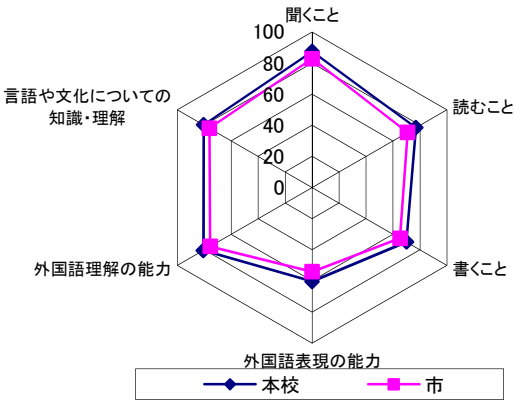
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	正答率は宇都宮市の平均より2%高い。小学校での学習内容からの出題である。各小門ごとにみると、大門2の(4)「てこの規則性を利用した道具の支点・力点・作用点」を問う問題以外は、全て宇都宮市の平均を上回っている。	中学校では、「電磁気」について2学年の「電流」・「電流と磁界」、「力・運動」については3学年の「運動の規則性」「力学的エネルギー」で扱うことになる。その中で、きちんと支点・力点・作用点といった内容も押さえていきたい。
生命・地球	正答率は宇都宮市の平均より1.5%高い。生命・地球の領域の出題は大門1のみで、小学校での学習内容である。小門ごとにみると、(3)の「火山灰の層からとった粒の特徴」答える問いのみ、宇都宮市の平均を下回っている。	小学校で学習する「大地のつくりと変化」については、中学校1年で、「火山と地震」・「地層の重なりと過去の様子」で発展的に扱う内容である。特に、火山灰については、椀がけ法により火山灰に含まれる鉱物を観察するので、双眼実体顕微鏡によりしっかりと確認させたい。
植物の生活と種類	正答率は宇都宮市の平均より0.5%高い。大門4・5・6全体の正答率は宇都宮市の平均をわずかに上回った。小門ごとに見ていくと、12の小門のうち7つの小門で宇都宮市の平均を上回っている。	「植物」は、中学校入学後に最初に扱う内容なので、観察法を確認しながら丁寧に指導を行い、日常生活との関連性についても触れてきた。しかし、正答率が宇都宮市の平均をわずかに上回るのみであった。今後、さらに観察を重視し、日常生活との関連を図った教材の開発を進めていきたい。
身の回りの物質	正答率は宇都宮市の平均より1.2%高い。大門3つの中に小門が8つあるが、そのうち宇都宮市の平均を下回ったものが3問ある。その下回った3問のうちの2問が、生活への活用問題である。	宇都宮市の平均を5%下回ったのが、「蒸留が、身の周りのどのような場面で行われているかが分かる」であった。実際に蒸留実験を行い、原油からガソリンや灯油などを取り出すときに利用されていることにも触れたが、定着していない結果となった。教科書の内容を、より分かりやすく伝えていくための、具体的な提示物を用意していきたい。
身近な物理現象	正答率は宇都宮市の平均より1.4%高い。大門1つのみである。小門(1)の屈折についての問いは、宇都宮市の平均を10%以上上回っている。小門(2)の反射の法則と小門(3)の反射角と屈折角の変化はわずかに宇都宮市の平均を下回っている。	「屈折」については、宇都宮市の平均を10%以上上回る結果となった。屈折の確認をするだけでなく、屈折により起きる不思議な現象を体験させたことが正答率を高めたと考えられる。今後は、反射の法則につちえも、日常生活の中から様々な現象を理科室に持ち込み体感させていきたい。

宇都宮市立古里中学校 第1学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	87.4	82.8
	読むこと	77.0	70.8
	書くこと	70.0	65.2
観点別	外国語表現の能力	60.4	54.1
	外国語理解の能力	80.8	75.7
	言語や文化についての知識・理解	80.6	76.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率は87.4%と宇都宮市の平均を4.6%上回っている。通常授業では單元ごとのリスニングテストや教科書にあるリスニング練習を行っており、ALTによるインタビュー活動を多く取り入れている。Classroom EnglishやInteractionを意識した授業を行っている。音読練習はリピート、ペア、個人で行っている。	引き続きClassroom Englishを用いた授業をこころがけたい。今後はインプットの機会を多く取り入れたり、ALTの活用で英語に触れる機会をより増やしていきたい。数の聞き取りや日付の聞き取りに迷わないポイントを指導したい。
読むこと	正答率は6.2%と宇都宮市の平均を上回った。授業ではポイントをしっかりとまとめたりワークシートで活動やドリルを行っている。Q&AやT or Fで内容の把握や応答文のパターンを繰り返し行っている。指示語や代名詞がしっかり理解できている生徒が多いが、あいまいになっている生徒は少なからずいる。	引き続きQ&Aは内容把握の確認として取り入れたい。グループ学習の機会を増やし、大まかな内容をつかめる授業を意識したい。指示語や代名詞を理解させるよう簡単な文でしっかりと説明する指導をしたい。
書くこと	正答率は4.8%と宇都宮市の平均を上回った。授業では毎回単語テストを実施している。基本本文の練習問題や基本本文を使った作文の指導をしている。ALTやTTで生徒を一人一人確認している。英作文を書くことに関しては抵抗はないが、自己表現をすることが少し苦手だと感じている生徒やつながりのある文を書くことが苦手と感じる生徒は多い。	つながりのある文を意識した英作文を書く機会を増やす指導をし、発展的な英作文の課題設定とTTで丁寧なチェックをしていきたい。対話文においては身近なことを設定した文で多く触れさせたい。